

＝ KOKUSAI KORYU TSUSHIN ＝

国際交流つうしん

P.5

ちば多文化みらい共創講座
講師育成・スキルアップ講座&意見交換会



P.5

ちば多文化共生みらい共創講座
(千葉県千葉リハビリテーションセンター)

P.6

ボランティア活動報告
(インドからの学生への折り紙レッスン)

目次

P.2 使ってみよう！やさしい日本語

P.3 千葉市町村国際交流協会連絡会議
新スタッフ紹介

P.4~6 事業報告(令和8年4月~8月)

P.7 JICA千葉デスクのページ

P.8 千葉県から世界へ！～コスタリカ共和国～

広告

「日本語を教える」としたら

スリーエーネットワーク

好評発売中



庵功雄 監修 志村ゆかり 著
1,320円(税込)B5判

自分の考えを伝える
作文練習帳
—外国につながる
生徒のための日本語—

日本語指導を受ける中高生向け作文教材。アイディア探しから作文の組み立て、発表までのステップを丁寧に踏み、例を参考にしながら進めます。分析力や論理的思考力を育む第一歩としてもおすすめです。

翻訳付きことばリスト、支援の手引きなどの補助教材→



広告

入管手続きは行政書士にお任せ下さい

申請取次行政書士に申請依頼をすると、申請人本人は
出入国在留管理局への出頭が
免除されるので、仕事や学業に
専念することが可能です。



お問い合わせは…



千葉県行政書士会

www.chiba-gyosei.or.jp/

〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央4丁目13番10号





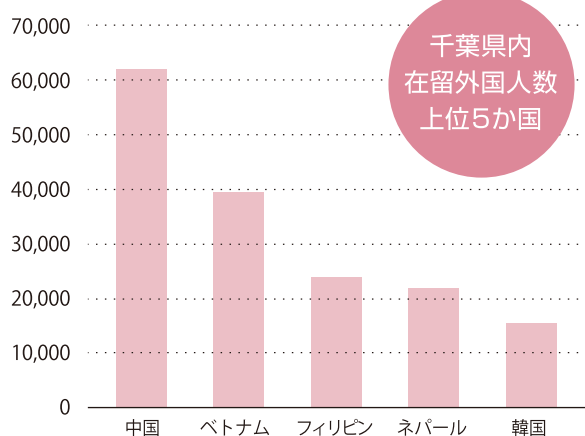
使ってみよう！「やさしい日本語」 ～外国人に易しく優しく伝わる言葉～



「やさしい日本語」は、普段使われている言葉を外国人などにも分かるように配慮した簡単な日本語のことです。1995年の阪神・淡路大震災で外国人が災害時に必要な情報を十分に受け取れなかったことをきっかけに、日本語が不慣れな外国人などに素早く情報を伝えることを目的に考案されました。

POINT! 「やさしい日本語」が有効な理由

千葉県には、令和7年12月末日時点で166の国と地域から259,663人も外国人が暮らしていますが、そのうち約98%が英語以外を母語としています。また、千葉県国際課が令和2年に外国人県民を対象に実施した千葉県地域日本語教育実態調査では、日本語を「毎日使う」と回答した外国人県民は74.2%を占め、「毎日ではないが、よく使う」(13.8%)と合わせると9割(88.0%)の外国人が日本語を日常的に使用しているという結果が出ました。英語に翻訳すれば多くの外国人に情報が伝わるわけではなく、むしろ、「やさしい日本語」は多くの外国人県民に英語より伝わる有効な情報伝達手段です。



出典: 令和7年12月末在留外国人統計(出入国在留管理庁)

POINT! 「やさしい日本語」のしくみ

外国人に伝わりやすいポイントをご紹介します。

- ☒ 1つの文を短くして、文の構造を簡単にする
- ☒ 難しい熟語や外来語、尊敬語・謙譲語 をなるべく使わない
- ☒ あいまいな表現を避ける
- ☒ 擬態語や擬音語を使わない



【災害時】

通常語

今後も震度5弱以上の地震が発生することがあります。
津波警報や注意報にも注意してください。

やさしい
日本語

これから 大きい 地震が 起こります。津波(=大きな
波が何回も来ること)が起きます。気をつけてください。

難しい言葉は言い換えるか、
意味を補足する

あいまい

「やさしい日本語」の使用例



【出入国在留管理庁】
在留支援のための
やさしい日本語ガイドライン



【公益財団法人
東京都つながり創生財団】
やさしく伝えるための
「3つのS」

仕事や生活上で外国人と関わるときは、「やさしい日本語」を使ってみましょう。「やさしい日本語」に正解はありませんが、相手の理解を確認しながら、思いやりの気持ちを持って話す・書くことが大切です。もっと「やさしい日本語」のことを学びたい方は、参考サイトもぜひご覧ください。

千葉県市町村国際交流協会連絡会議を開催しました

県内在住の外国人が増加し、国際交流協会の役割がますます重要となる中、協会同士の横のつながりを強化するとともに、各団体の先進的な取組を学び合うため、当センターとして初めて、県内の市町村国際交流協会が一堂に会する「千葉県市町村国際交流協会連絡会議」を開催しました。当日は、14団体22名の方にご参加いただき、当センターの事業概要を説明した後、3つのグループに分かれて分科会を行いました。普段はなかなか聞く機会のない業務上の疑問や課題について意見交換を行うとともに、各協会の特色ある取組や運営の工夫を紹介し合い、参加者同士が学び合う有意義な時間となりました。当センターにとっても、県内各地で実施されているさまざまな取組を知る貴重な機会となりました。



アンケートでは、「普段は近隣の団体以外と交流する機会が少ないため、さまざまな地域の実情を知ることができてよかった」「活動に関する課題を共有し、解決に向けたアイデアを得ることができた」といった感想が寄せられました。一方で、「時間が足りなかった」「オンラインでの実施も検討してほしい」といったご意見もいただきました。これらの声を踏まえ、今後は内容をさらに充実させるとともに、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式での開催も検討し、より多くの団体が参加しやすく、実りある会議となるよう取り組んでまいります。

新スタッフ紹介

今年度より新たに
千葉県国際交流センターに
加わった職員を紹介いたします。



太田(おおた)センター長 ■

「国際交流つうしん」をご覧のみなさま、はじめまして。本年の4月から千葉県国際交流センター長を務めております、太田と申します。令和7年国勢調査で本県の人口が初めて減少する中、本県在留外国人の方は令和7年12月末時点で県人口の4.1パーセント約26万人の方がおられます。外国籍の方が増えている中、本県の多文化共生社会づくりに向け必要とされる、地域日本語教育の推進、国際理解や国際協力の促進など、当センターに求められる役割は年々増しており、センターの一員として少しでもお役にたてるよう、努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

佐々木(ささき)さん ■

小学校1年生のときに初めて千葉県を訪れ、ディズニーランドの「イツ・ア・スモールワールド」が大好きになりました。多様な国籍の子どもたちが「小さな世界」を歌い踊る世界観に魅了された体験が、多文化共生の仕事を志す原点だったのかもしれません。誰もが安心して暮らすことができ、多様性が活力になる地域づくりに尽力できればと思います。

International Gathering 多文化子育てサロン【5/22、6/2、7/3】

外国人保護者が日本で安心して子育てができる環境をつくるとともに、日本人と外国人の親子が交流し、地域の多文化共生を推進することを目的に、鎌ケ谷市と共催で、NPO法人Mother's Tree Japanの協力を得て「International Gathering—多文化子育てサロン」を開催しました。各回ともに様々な国の親子が参加し、国籍の違いを越えて、交流が生まれていました。

5/22 ネパール式ベビーマッサージ

ネパール出身のザヤさんに、ベビーマッサージを教えてくださいました。ネパールでは、1日に複数回、スパイスなどが入ったオイルで赤ちゃんにマッサージをする習慣があるとのこと、赤ちゃんも保護者もリラックスできるマッサージのやり方を教えてくださいました。赤ちゃんはとても気持ちよさそうで、保護者のみなさんも自然と笑顔があふれる時間となりました。



6/2 日本の保育園のことを知ろう

保育園と幼稚園の違い、園での1日の過ごし方、申込の時期、準備するものなどについて学び、保護者からは、「母乳しか飲まないが預けて大丈夫か」「いつから子どもを預けられるのか」などの質問をいただき、関心の高さがうかがえました。



7/3 日本と外国の離乳食講座

離乳食講座では、塩や砂糖で味付けする代わりに、出汁で香りづけしたおかゆや、柔らかく煮てつぶした野菜を試食したり、ネパールで赤ちゃんの100日目のお祝いに食べられている甘いおかゆを味見したり、アレルギーについて学んだりしました。英語が堪能な日本人保護者が、日本で手に入る材料で海外の離乳食に似たレシピを紹介する場面もあり、一緒に食べながら会話も弾む、楽しい会となりました。



参加した保護者の声

とても楽しくて、ためになりました。日本の離乳食も家で作ってみようと思いました！



いろいろな国のひととお話ができとても楽しかったです！
外国の子育てのことを知ることができて、興味深かったです。

ちば多文化みらい共創講座

千葉県国際交流センターでは、在住外国人と小中学生等との交流を通じて、外国の文化や多文化共生について学ぶ授業を実施しています。

5/31

ちば多文化みらい共創講座 講師育成・スキルアップ講座&意見交換会 ～多文化をつたえるプレゼン力を磨こう!～

外国人講師育成・スキルアップのため、講演に定評のあるベトナム出身のユンさん、インドネシア出身のシンタさんによるデモ講演と、受講者の興味を引くための工夫について意見交換を行いました。

2人のデモ講演では、母国の民族衣装や紙幣・コインなどに触れてもらったり、ゲームやクイズ等を取り入れたりするなど、飽きさせない講義の工夫を実演していただきました。意見交換では、「母国の文字で名前を書いてあげる」「母国の歌、楽器、ダンスなどを一緒にやってみる」など、さまざまな工夫を紹介し合い、有意義な時間となりました。

6/29

放課後こどもスクールみらいの木

ウクライナ出身の講師が千葉市美浜区のアフタースクールに通う3～6年生を対象に講演を行いました。ウクライナの子どもたちの伝統的な遊びをみんなで体験したり、ウクライナのお菓子や紅茶を食べたりして楽しみました。



7/30

千葉県千葉リハビリテーションセンター

パキスタン出身の講師が、千葉リハビリテーションセンターに入所する子どもたち10名と交流しました。パキスタンの挨拶や、数の数え方、人気のスポーツであるクリケットや、朝食の定番であるオムレットなどが、現地で撮影されたオリジナルの動画等で紹介されたほか、日本でドラマや映画にも出演されている講師が撮影用に使用しているターバンを身に着ける体験などを通じて、子どもたちはパキスタンの文化に触れ、親しんでいました。

その他の開催はこちら

6月12日	日本医科大学看護専門学校	中国
8月7日	千葉市立真砂西小学校アフタースクール	ベトナム、ウクライナ
8月27日	習志野市立実籾小学校児童会	ウクライナ、台湾



5/31

～ボランティア活動報告～ インドからの学生への折り紙レッスン

インドから来日した学生グループが、折り紙を通じて日本の伝統文化を体験するプログラムを実施しました。当センターに登録のある語学ボランティアが先生となり、鶴や兜、手裏剣などを折って交流しました。学生たちは、ボランティアの方々に手伝ってもらいながら作った折り紙と一緒に写真を撮るなどして楽しんでいました。

6/4・11・18・25・7/2

日本語学習支援者基礎研修

日本語学習支援に興味を持つ千葉県民を対象とした基礎研修です。講師は東京にほんごネット代表の有田玲子氏にご担当いただきました。

今回は10代から70代までの受講者36名に参加いただきました。受講後のアンケートでは「支援に使える資料やヒントをたくさん教えていただいた。生活に生かせる日本語を、学習者が楽しんで習得できるよう活用していきたい。」「グループワークを通して参加者と交流できたのも楽しかった」といった感想を多くいただきました。



6/23・29

国際協力パネル展

千葉県ユニセフ協会、千葉県、JICA東京との共催により、そごう千葉店地下ギャラリーにおいて開催しました。

当センターは、外国人相談事業や日本語学習支援、多文化共生に関する取組を紹介するパネルや写真を展示するとともに、パンフレットや事業案内を配架しました。買い物などで偶然会場を訪れた方にもご覧いただき、普段は国際協力や多文化共生に触れる機会の少ない方々に、当センターの活動や国際協力への理解を深めていただく機会となりました。



今後の行事予定

事業	内容	時期(予定)
帯同家族向け基礎日本語クラス	日本語を初めて学ぶ外国人向けの日本語クラス	9～12月
日本語学習支援者基礎研修	学習支援に必要な心構えや基礎知識を学ぶ講座	10月
多文化子育てサロン	外国人と日本人の親子のための交流サロン	10～12月
生活オリエンテーション	交通ルールや災害、ビザなど、生活に必要な情報を外国人に伝える講座	11～12月
国際理解セミナー	県民に広く、国際理解を図る講座	12月・2月
千葉県地域日本語教育フォーラム	県民を対象に地域日本語教育の理解を深めるための講演、参加者間の交流・意見交換	1月

■ JICA千葉デスクのページ



千葉県で活躍するJICA海外協力経験者をご紹介します。太田さんはJICA海外協力隊経験を活かして千葉県八街市で中高生の居場所づくりに取り組まれています。

私は2018年3月から2年間、青少年活動に取り組む協力隊員としてソロモン諸島に派遣されました。現地では、識字率の向上に向けて、「読書推進活動」に取り組みました。当時、地域に唯一あった図書室の蔵書は4,000冊程度。そのすべてがオーストラリアなどから贈られた中古の本でした。まずは現地の子どもたちに本の面白さを知ってもらおうと、現地教員や住民と協力して公共図書室や学校図書館の整備を行ったり、ビブリオバトルという、自分のおすすめの本を紹介し、参加者全員の投票で一番読みたくなった本を決めるゲームを行うイベントを開催したりして、本を読む文化づくりに取り組みました。

帰国後、2023年3月には、私の地元である八街市で中高生の居場所「ナッツアップ？」を開館しました。若者たちは放課後に集まり、自習をしたり、ボードゲームをしたり、おしゃべりをしたりと、それぞれが思い思いの時間を過ごしています。そうした何気ない日常を重ねる中でスタッフとの信頼関係が育まれ、学校や家庭、人間関係などの悩みを打ち明けてくれることも少なくありません。誰にも相談できなかった家庭内での暴力を打ち



ビブリオバトルの表彰

明けてくれたことをきっかけに、児童相談所による保護につながったケースもありました。学校や家庭だけでは支えきれない若者を地域全体で見守り、必要な支援へつなぐ「第三の居場所」をつくりたいという思いで活動を続けています。



ナッツアップ？ 3周年記念活動報告会

現在の居場所事業は助成金に大きく依存しているため、持続可能な運営を目指して協力隊経験者向け起業支援プログラム「BLUE」に参加しました。高校未所属の若者と地元企業をつなぐインターンシップ事業を構想し、地域課題の解決と自主財源の確保の両立を目指しています。

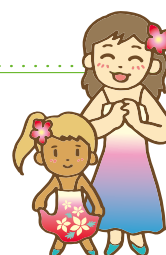
協力隊での経験は、現在の活動の原点です。ソロモン諸島では、地域全体で子どもを見守り育てる文化に触れました。その価値観は、現在の居場所づくりの根幹となっています。また、地域住民と信頼関係を築きながら活動した経験や、自ら課題を見つけ、周囲を巻き込みながら形にしていける実践力は、地域で新たな事業を立ち上げ、継続していくための大きな支えとなっています。

(参考情報)

■太田さんが代表を務める「ナッツアップ？」ホームページ <https://youth-chiba.org/>

■JICA海外協力隊について詳細はこちら <https://www.jica.go.jp/volunteer/>

■JICA海外協力隊起業支援プロジェクト「BLUE」について詳細はこちら <https://blue.jica.go.jp/>





千葉県から世界へ!

コスタリカ共和国



今回はJICA海外協力隊としてコスタリカ共和国に派遣中の深野実さん(千葉市教員・現職参加)からの寄稿です。遠い中央アメリカの地で、障がい者スポーツの実践、指導を行っている深野さんが、現地での生活や活動について教えてくださいました。

★自然と平和を愛する国

コスタリカは中央アメリカに位置し、北にニカラグア、南東にパナマと接する自然豊かな国です。国土の約25%が国立公園や自然保護区に指定され、地球上の生物種の約5%が生息するといわれる「生物多様性の宝庫」です。また、1948年に軍隊を廃止した平和の国としても知られ、環境保護と平和を大切にする国民性が特徴です。



任地の山から見た大自然

★「Pura Vida」が息づく日常

コスタリカの日常生活に欠かせないのが「プラ・ビダ(Pura Vida)」という言葉です。直訳すると「純粋な人生」ですが、挨拶や感謝、元気であることを伝える返答など、さまざまな場面で使われています。この言葉には、今ある幸せを大切に、前向きに生き

ようとする人々の哲学が込められています。家族との絆も深く、週末には親戚や友人が集まり、一緒に食事や会話を楽しむ習慣があります。



ランチの定番「カサード」

★彩り豊かな伝統食

食文化も生活を彩る大切な要素です。朝食の定番は黒豆とご飯を炒めた「ガジョ・ピント」、昼食には肉や魚、ライス、豆料理、サラダ、甘い完熟バナナのフライなどを盛り合わせた「カサード」が親しまれています。また、世界的に評価の高いコーヒーも欠かせず、家族や友人と語らいながら味わう時間は人々の楽しみとなっています。私自身もコスタリカに来てから、コーヒーを飲む習慣が身に付きました。こうし

た文化や習慣を知るとは、多様な価値観を尊重し、地域社会で共に生きていく第一歩となります。

JICA海外協力隊の活動を通じた交流をきっかけに、遠く離れた国の文化を身近に感じてみてください。

★現地での活動

私は障害児・者支援の職種でコスタリカの市役所に配属され、現地のNGOや特別支援学校、福祉施設などで、誰もが楽しめるインクルーシブスポーツの実践・指導を行っています。加齢や障害があってもスポーツを楽しみ、運動習慣の定着や生活習慣の改善につながるよう活動しています。豊かな自然と多くの人々との交流を通して、日本とは異なる文化を学び、多文化共生について改めて考える貴重な経験となっています。



公益財団法人 ちば国際コンベンションビューロー 千葉県国際交流センター
〒261-8501 千葉市美浜区中瀬一丁目3番地 幕張テクノガーデンD棟14階
TEL: 043-297-0245 FAX: 043-297-2753 E-mail: ied@ccb.or.jp

<https://www.mcic.or.jp/engo/>
センター事業の紹介、最新ニュース、講座やイベントなど役立つ情報を掲載。

年2回発行
(9, 3月)